

「車いす空の旅 北海道」にボランティアとして参加

神奈川福祉事業協会（会長は県遊協平川正寿理事長が兼ねています。）は、神奈川新聞厚生文化事業団が年2回行っている「車いす空の旅事業」に、昭和60年から毎年300万円の支援を続けてきております。今回も前回の沖縄に続き県遊協職員がボランティアとして参加しました。

| | |
|--------|----------------------------------|
| 1. 日 時 | 平成20年9月11日（木）～ 13日（土） |
| 2. 場 所 | 北海道（阿寒湖・摩周湖・網走オホーツク流氷館 ほか） |
| 3. 主 催 | 神奈川新聞厚生文化事業団・神奈川県肢体不自由児協会 共催 |
| 4. 参加者 | 肢体障害者20名とその家族及び看護師・ボランティアなど総勢74名 |

5. 概 要 神奈川新聞厚生文化事業団では、車いす生活をおくる障害者とその家族を招待し、毎年4月は沖縄、9月には北海道と飛行機を利用して訪れています。この事業はボランティアの協力により支えられています。今回の旅行では、2日目はあいにくの空模様でしたが、摩周湖ではまるで私たちの到着にあわせたかのように奇跡的に霧は晴れ、透明度の高い湖を見ることができました。また、阿寒湖でのクルーズは激しい雨でまりもは見られませんでした。レジャーシートで雨よけをし、船まで案内するボランティアのハンドメイド的なやさしさに、参加者のご家族の方は大変感激されていました。なお、この「車いす空の旅」については、9月12日付及び9月14日付神奈川新聞にそれぞれ掲載されています。



「霧は晴れるかな・・・」摩周湖に一喜一憂



ボランティアはシートで雨避けし参加者を案内



夕食後のカラオケでは殆どの参加者が舞台へ



本物の流氷に触れ、クリオネに会い感激